

豊かなセカンドライフを 実現するためのしくみづくり ～地域の資源をつなぐ～

代表研究者：佐藤知行

共同研究者：近藤隆史、谷口香織、奈良場佑介、平野景樹

研究概要

課題

生きがいや関係性を喪失し、孤立するシニア層が多い。

初期仮説

地域コミュニティが希薄化し、仕事と家族以外につながりがない人が増えている。そのため、定年退職、配偶者との死別、身体機能の低下などの環境変化が訪れる60代後半から70代に一気に関係性を失うためではないか？

解決の方向性

30代～40代の若い世代から地域と関わりを持ち、仕事、家族以外のつながりをつくる。

調査方法

- 地域コミュニティの実態を知る（関係者へのインタビュー、地域活動への参加）。
- 住民への地域活動に関する意識調査。

対象地区

東京都国分寺市

活動報告

活動	調査内容および結果
国分寺市協働コミュニティ課訪問	国分寺の自治会加入率が37%を下回っている。
日野市NPO法人訪問	同団体が、市、市民、ボランティア団体をつなぐハブ的な存在となっている。人が集まるしくみづくりを工夫している。コロナ禍においても新たなつながり方を模索している。
ボランティア活動センターこくぶんじ	一昨年前から地域福祉コーディネーターを配置し、地域活動の支援を行っている。
民生委員への聞き取り（高齢者、子供の居場所づくり運営者）	いくつかの団体で共通の課題「活動拠点がない」「活動資金がない」「活動を支える人がいない」「コロナでリアルに会えない」といった声が聞かれた。
地域つながり協力隊主催「ちっちゃな縁日」に参加	神社をプラットフォームにして、人が集まるしくみづくりを推進している。11月3日開催の「ちっちゃな縁日」にポップコーン屋として参加。
地域住民への意識調査	「地域活動に参加していない」と答えた人の半数が「地域活動に関心がある」と答えた。参加していない理由は「情報がない」「時間がない」といった意見が聞かれた。
ワークショップ開催	地域コミュニティの在り方についてのワークショップを行う。自治会は地縁関係が強く新しい人が入りにくい。最近の子供は習い事が多いなど、地域活動を取り巻く環境も変化している。
NERIBA訪問	練馬区でコンセプトバー、イベントスペース、シェアハウスなどの場づくりを行っている団体を訪問し聞き取りを行った。
ぶんじワーク参加	国分寺には地域通貨「ぶんじ」を用いたコミュニティが存在。農家の収穫手伝いに参加。一日店長ができる「ぶんじ食堂」の情報を得る。
地域活動運営者を対象にしたSNS勉強会	ボランティアセンター職員、地域活動運営者を対象にFacebook、LINEの操作方法、活用方法について勉強会を行う。

活動の経緯と問いの進化（1）

国分寺市の自治会の加入率が低下している。自治会解衰退の背景に何があるのか？

**国分寺市
協働コミュニティ課
訪問**

お隣の日野市はNPOがハブになり革新的な取り組みをしているのに、国分寺が保守的なのはなぜだろう？

**日野市NPO法人
訪問**

国分寺には地域に関心のある人は多いのになぜ人がいないのはなぜだろう？

**ボランティア活動
センター
こくぶんじ訪問**

**高齢者サロン
子供の居場所づくり
関係者への聞き取り**

これらの活動は、関係者の善意で成り立っている。価値ある活動に継続性を持たせるためにどうしたらよいか？

**地域つながり協力隊主催
「ちっちゃな縁日」に
参加**

“近場で”
“気軽に”
“うまみもある”活動
に地域巻き込みの
ヒントがありそう？

活動の経緯と問いの進化（2）

「地域活動には参加していないけど関心はある」という人は意外に存在している。どうやったら巻き込めるんだろう？

地域活動参加についての意識調査

地域活動を運営されている方を招いてワークショップ開催

自治会などの従来型のコミュニティと新たなコミュニティとの共存の可能性はあるのか？

NERIBA訪問

他地域で展開しているコミュニティのビジネスモデルはどんなになっているんだろう？

ぶんじワーク参加

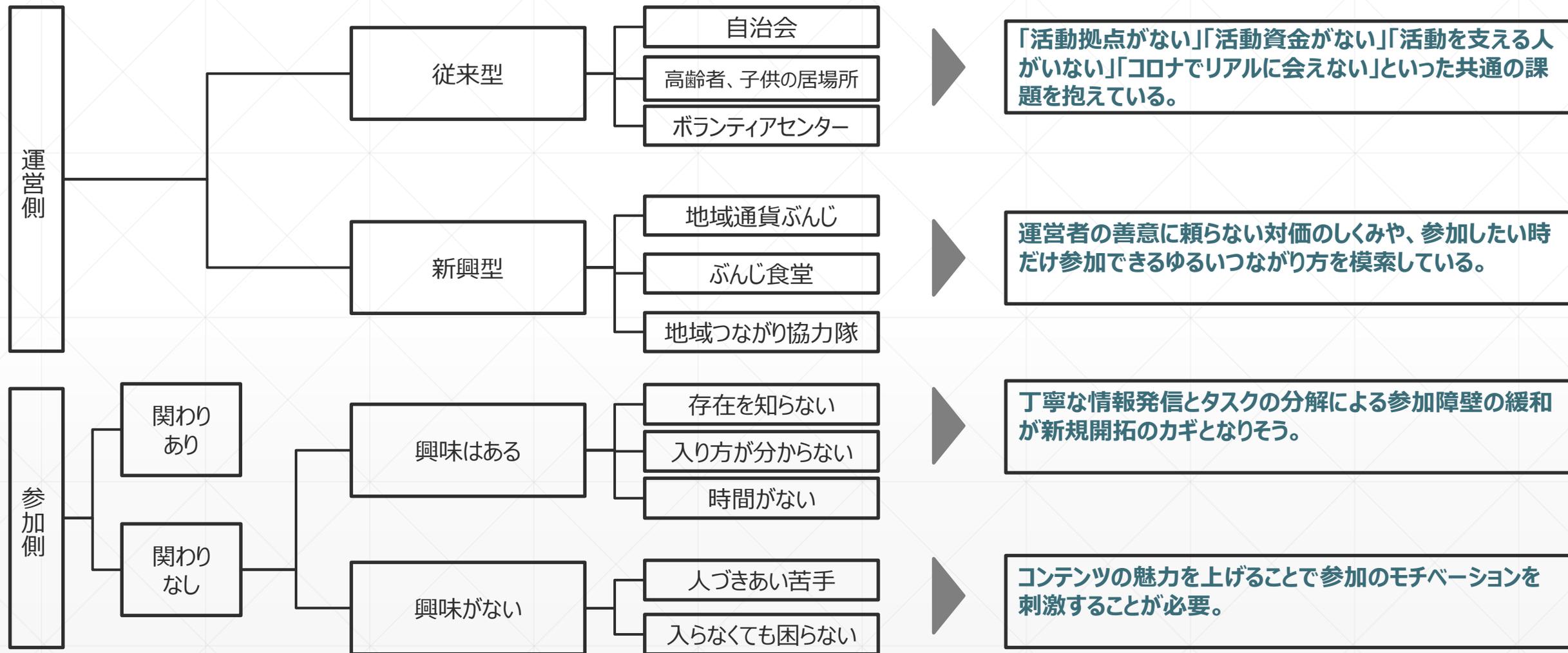
国分寺には地域通貨ぶんじがある。どんなしくみなんだろう？

地域活動運営者を対象にしたSNS勉強会

既存の地域コミュニティを活性化し、継続性を持たせるために何が出来るか？

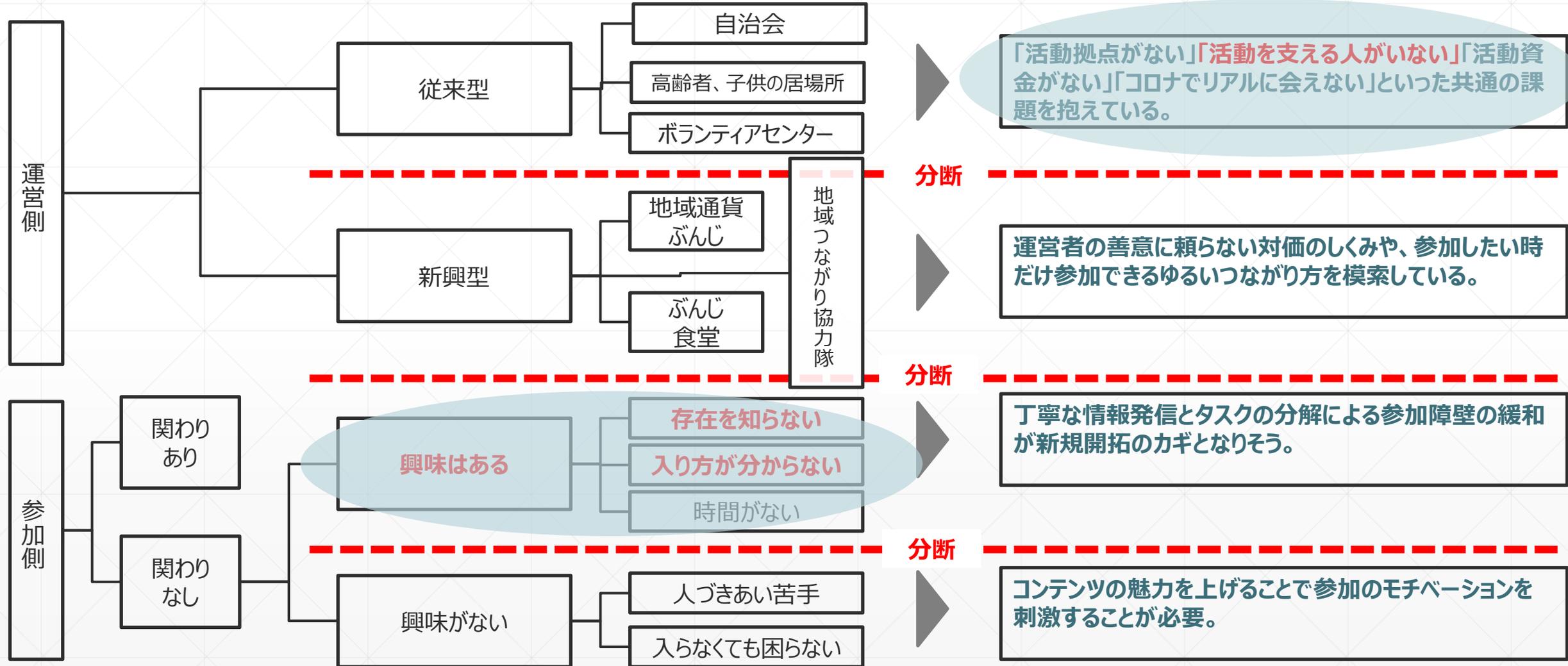
国分寺地域コミュニティの状況（1）

- 国分寺には地道に活動を支える人や、新たなコミュニティの在り方にチャレンジしている人たちがいることが分かった。
- 意識調査から地域活動に参加していない人の中にも地域活動に興味を持っている人が一定数いることがうかがえた。



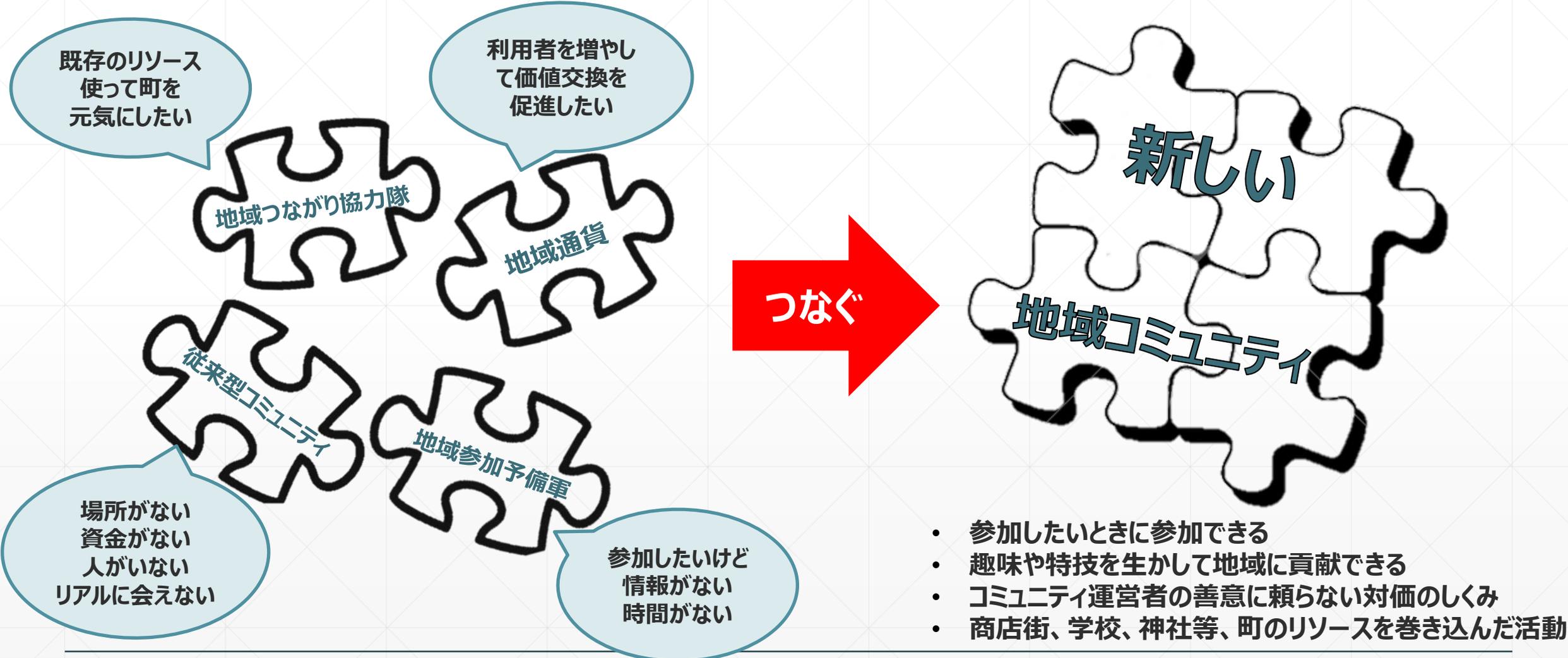
国分寺地域コミュニティの状況（2）

- 既存団体の横のつながりが薄くリソースは分散している。
- 従来型のコミュニティでは人が不足しているのに、地域活動に興味を持っている層に適切にアプローチできていない状況もうかがえた。



国分寺の地域コミュニティの状況から見たこと

- 調査を進めていくと自分たちの実現したい地域コミュニティを形成するためのピースが国分寺には既にあることに気づいた。
- 分散しているリソースをつなぐことで、人をつなぎ、価値をつなぎ、新たな地域コミュニティの在り方を創出につながるのではないか？



つなぐ活動① 神社プラットフォーム「ちっちゃな縁日」

- 活動内容

- 地域の神社を使って、「ちっちゃな縁日」を催す。

- 期待効果

- 既存のスペースを使うことで、場所も有効活用できるとともに費用も最低限で済む。
- 神社には安心、信頼、健全といったイメージがあり、地域の人が集いやすい。
- 神社はどのような地域にも存在するので横展開しやすい。
- コロナ禍における子供たちへの楽しみを感じてもらう。
- この活動により、普段地域活動に参加していない人にも参加いただき、地域活動に興味はあるが、参加できていない層との接点を作っていく。

※実際に主催者側として参加した際の写真



つなぐ活動②地域活動運営者を対象にしたSNS勉強会

• 活動内容

- ボランティアセンター職員3名、日吉町居場所づくりメンバー2名（民生委員）を対象に「Facebook」「LINE」の使い方および活用方法をレクチャー

• 期待効果

- 幅広く情報発信をすることで仲間集めや情報収集に役立てる。
- コロナ禍における新たなコミュニケーション方法を構築する。
- 既読確認を高齢者の安否確認に利用するなど、従来の活動をより効率的に行うしくみを構築する。
- 操作上の留意点を抑えることで個人情報漏洩等のリスクを回避しながら活用出来ることを知る。

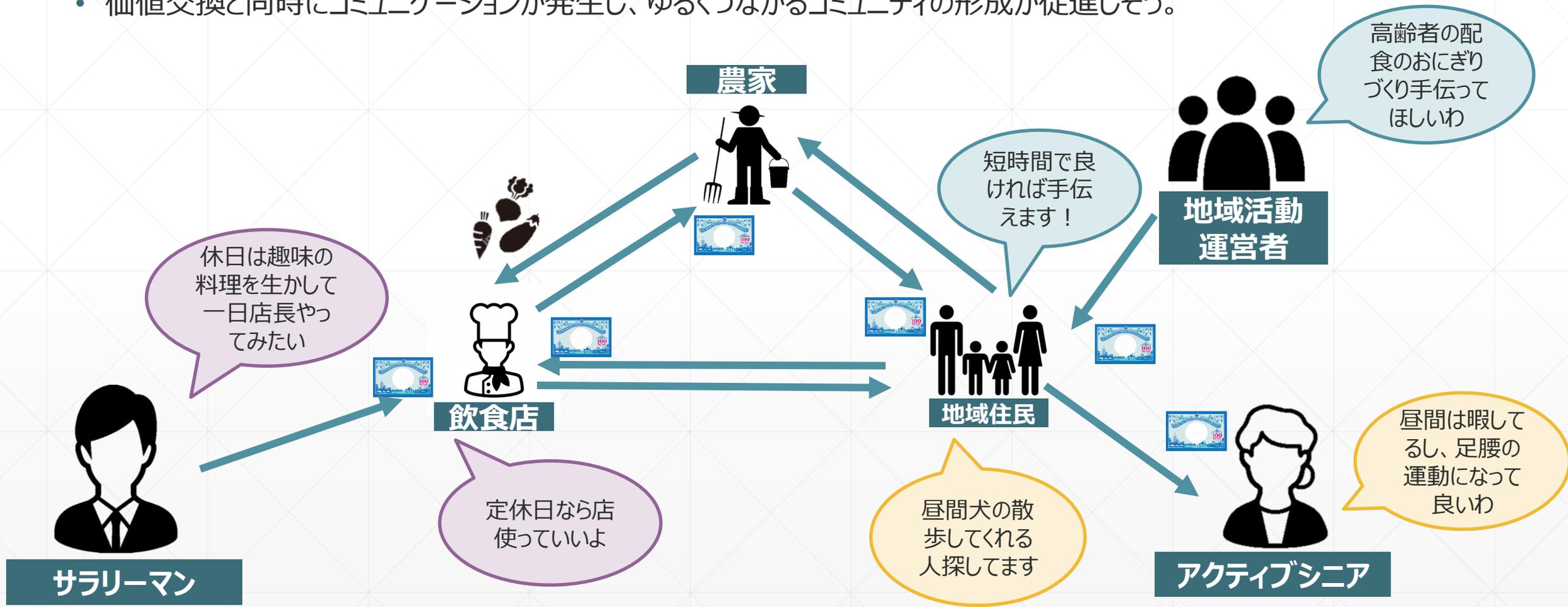
※開催時の様子



つなぐ活動③ 地域通貨ぶんじ (2)

期待効果

- 価値交換が多様化し、ぶんじが広く流通することで、現金に頼らない価値交換のしくみが一般化しそう。
- 価値交換と同時にコミュニケーションが発生し、ゆるくつながるコミュニティの形成が促進しそう。



つなぐ活動④ゆるくつながる場「あそぶんじ」

- 活動内容

- 近所で、気軽に、やりたいができる場所をつくる。
- 1日店長、イベントスペース（プログラミング講座、スマホ教室など）などやりたいことを日替わりで実現する。
- コワーキングスペースやイベントの告知や求人票も掲載

- 期待効果

- 前向きに何かに挑戦し、実験する人達が集まれる。
- コンセプトに共感した人達とのつながりを作り、新たなコミュニティを作る。
- 一方で、何の目的を持たない人もなんとなく立ち寄ってもらえるようなセミクローズドな場所を目指し、さらに多くの人達との接点を作る。



国分寺のありたい姿

研究開始時のゴールイメージ

課題

サービス

リソース

スマホって
難しくて・・・



コロナで
外出でき
ない

育児ノイ
ローゼに
なりそう



プラッ
ト
フォーム



スマホ
勉強会
できますよ

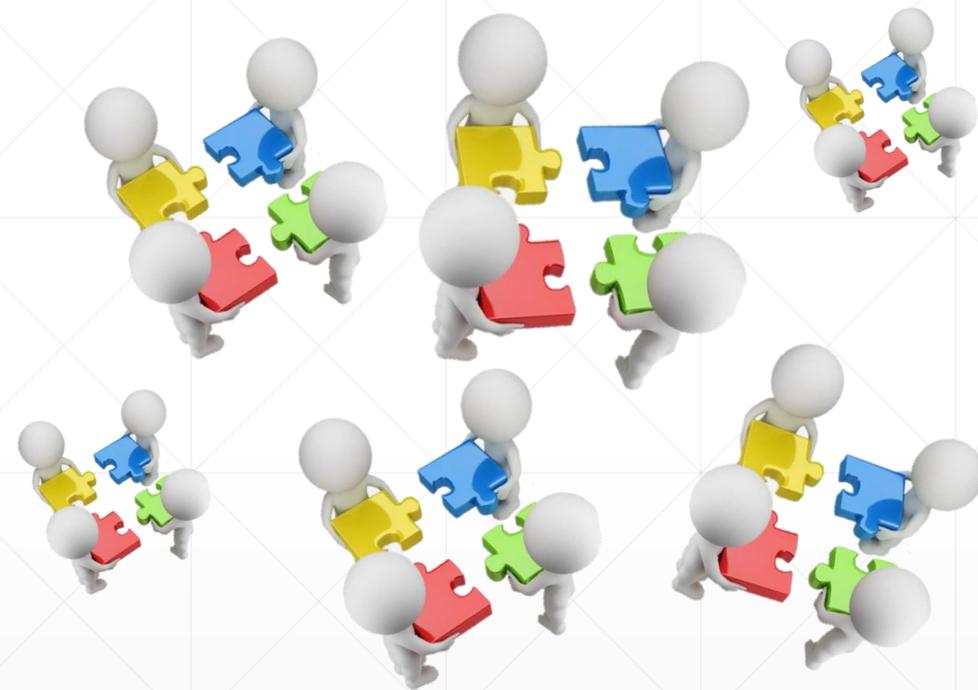
オンライ
ンで活
動しま
せんか？



ママ友の会
があるよ

地域の課題を洗い出し、それを解決するリソースを
マッチングするプラットフォームをイメージしていた。

現在のゴールイメージ



- 誰かのお困り事や“やりたい”を誰でもがサポートできる状態。
- 誰もがリソースであり、受け手になれる状態。